褥瘡発生率

《指標の説明・定義》

褥瘡は、疼痛などにより患者の QOL（生活の質）の低下をきたすとともに感染を引き起こすなど治療が長期に及ぶことによって、結果的に在院日数の長期化や医療費の増大につながります。

《計算式》

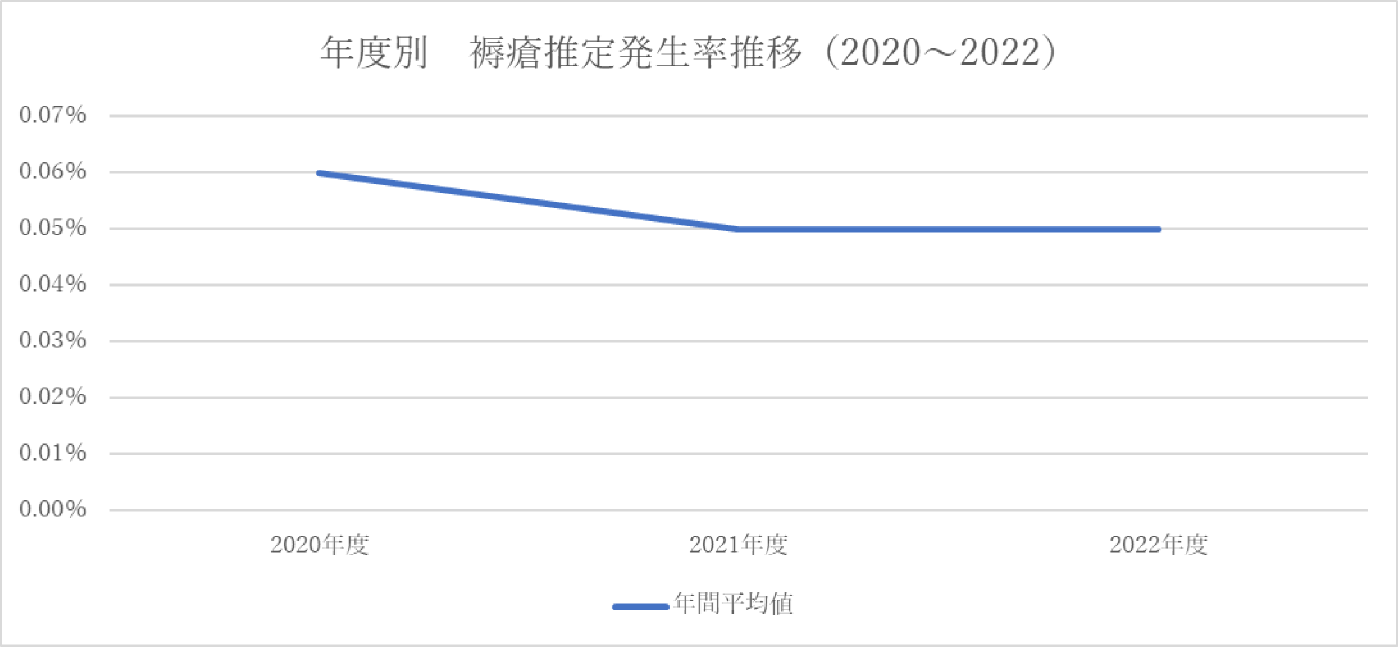
分子：調査期間における分母対象患者のうち、ｄ2 以上の褥瘡の新規院内発生患者数
分母：入院延べ患者数

褥瘡評価用　深さ（Depth）の分類	
ｄ0	皮膚損傷・発赤なし
ｄ1	持続する発赤
ｄ2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔・体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

《褥瘡発生率》

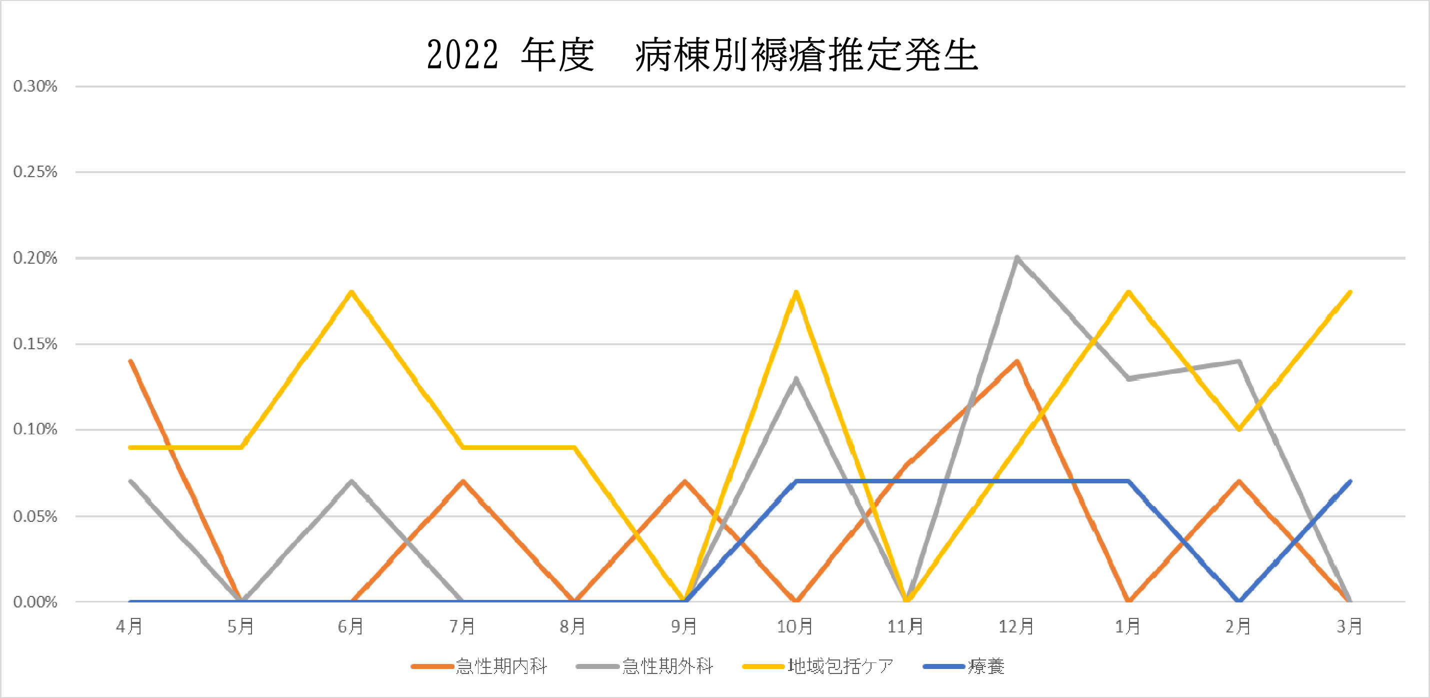
年度別 褥瘡推定発生率推移

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年間平均値	0.06%	0.05%	0.05%



2022 年度　病棟別褥瘡推定発生率（月褥瘡推定発生者数/のべ入院患者数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	2022 年度平均
急性期内科	0.14%	0.00%	0.00%	0.07%	0.00%	0.07%	0.00%	0.08%	0.14%	0.00%	0.07%	0.00%	0.08%
急性期外科	0.07%	0.00%	0.07%	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%	0.00%	0.20%	0.13%	0.14%	0.00%	0.07%
地域包括ケア	0.09%	0.09%	0.18%	0.09%	0.09%	0.00%	0.18%	0.00%	0.09%	0.18%	0.10%	0.18%	0.04%
療養	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.07%	0.07%	0.07%	0.07%	0.00%	0.07%	0.03%



2022 年度の褥瘡推定発生率は 0.05%と、前年度と同じ推移でした。当院では予防対策に活かすため褥瘡の新規発生時には各病棟のチームスタッフでカンファレンスを開催し、なぜ褥瘡が発生したのかをアセスメントし対策を立てる活動を行なっています。考察する力を付けることで、皮膚の脆弱や病状により発生リスクが高い患者さんをスタッフひとりひとりが意識しケアを行なうことが出来るようになってきたことと、褥瘡の基礎知識が付いてきたことによりマットレスやクッションなどの体圧分散用具を適切に選択、使用できるようになってきたことが褥瘡の新規発生の予防に繋がっていると考えます。

褥瘡発生は患者さんや御家族に肉体的にも精神的にも苦痛をもたらしてしまいます。
超高齢化社会に伴い褥瘡の発生リスクが高い方が増える中、褥瘡の発生を少しでも減少させるため、当院では多職種からなる褥瘡対策チームで年 2 回の院内研修を行っています。また、今年度より専門で褥瘡管理対策を行なう特定看護師を配置します。基本的な予防的ケアに加え、より質の高いケアが提供できるよう努めていき今後も発生率低下に向けて対策を続けていきます。